第 10 章

男女共同参画の視点に立った子ども・子育て支援と地域づくり

飯島　絵理

1　はじめに：調査研究の背景と目的

第３次男女共同参画基本計画（平成22年12月閣議決定）では、「地域における身近な男女共同参画の推進」が、改めて強調される視点の１つとして挙げられている。「地域力を高めていくためには、女性も男性も誰もが出番と居場所のある地域社会を形成していくことが重要」（内閣府「第３次男女共同参画基本計画」2010：2）であり、「行政だけでなく、一人ひとりが加わって『新しい公共』を創造し、地域力を高め、持続可能な社会を築くには、地域における男女共同参画が不可欠である」（同：106）とされる。

一方、地域における子ども・子育て支援においては、核家族の増加や人間関係の希薄化、児童虐待や生活困難家庭の増加等を背景として、人と人、人と機関をつなぎ地域コミュニティを再生するためのさまざまな取り組みがなされている。地域力を高め、持続可能な社会を築くために男女共同参画の推進が重要であるという上述の点は、このコミュニティづくりにおいても同様なはずであるが、現状では、その重要性が十分に認識されているとはいえない。行政担当者を含め、子ども・子育て支援に携わる支援者が、自らがおこなう取り組みと男女共同参画の推進をむすびつけて捉えているケースは、むしろ少数であると思われる。

このような状況を踏まえ、国立女性教育会館では、平成22年度「男女共同参画の視点に立った地域全体で取り組む次世代育成支援事業に関する調査研究」を実施した[1]。本調査研究では、子ども・子育て支援を通して身近な男女共同参画を推進していく方法として、女性関連施設や女性団体と子育て支援団体とのつながりに着目し、つながることの双方および地域にとっての利点や方法、工夫等を明らかにすることを目的とした。女性関連施設や女性団体のなかには、子育て支援団体や子育て世代と有機的につながって連携・協働しているところもある一方、つながりたいけれどうまくいかなかったり、方法がわからないというところも多い。子育て支援団体や子育てグループとつながることは、男女共同参画の推進だけでなく、女性関連施設にとっては利用者層の拡大、女性団体にとってはメンバーの固定化・高齢化への対応や次世代リーダーの育成といった課題の解決の足がかりにもなりうる。

本稿では、調査結果の一部について報告するとともに、男女共同参画の視点に立った子ども・子育て支援の内容や、女性関連施設や女性団体が子ども・子育て支援にかかわる意義等について考察する。

2　調査研究の概要

本調査研究では、①子育て支援NPO法人を対象とした質問紙調査、②女性関連施設を対象とした質問紙調査、および③子育て支援の取り組みをおこなう女性関連施設や女性団体を対象としたインタビュー調査を実施した。以下では、その具体的な方法・対象等について述べる。

①子育て支援NPO法人を対象とした質問紙調査

内閣府NPOホームページより、「子育て支援」をキーワードにして検索・抽出した子育て支援団体（NPO法人）918に対して調査票を郵送して実施した。実施時期は平成22年11～12月。回収率26.5％（回収数243）。他機関との連携・ネットワークの現状、メンバーの資格や経験、関係が深いと思われる子育て支援以外の活動分野、おこなっている取り組み等について、選択式で

質問した。男女共同参画の視点については、要素となるいくつかの取り組みを示し、それぞれについてどの程度重視しているかをきいた。その他、今後、特に力を入れたいと思う男女共同参画の視点に立った活動や、そのための課題等について、自由記述で質問した。

②女性関連施設を対象とした質問紙調査

国立女性教育会館が把握する全国の女性関連施設398を対象に、情報課が実施する女性関連施設データベース調査の最終設問項目として添付し、調査票を郵送して実施した。実施時期は平成22年７～８月。有効回収率59.3％（有効回収数236）。連携・協働についての情報収集を目的として、女性関連施設および女性団体と子育て支援団体の関わりについて、具体的な事例や課題を自由記述で質問した。

③子育て支援の取り組みをおこなう女性関連施設や女性団体を対象としたインタビュー調査

インタビュー調査は、前述の２つの質問紙調査から得た情報や、それ以外の情報収集から、参考となる取り組みを地域や活動内容等を考慮して選び、11件の施設長や担当者、団体代表に対して聞き取りをおこなった。半構造的インタビューの手法をとり、枠組となる質問項目は、ａ活動内容、ｂ連携・ネットワークの経緯、ｃ連携・ネットワークを活かした取り組みの内容、ｄ取り組みの方向性やつながりの利点の理解・共有、ｅ男女共同参画の視点の捉え方とその具体的活動、ｆ今後に向けた展望・課題、の６つとした。

３　男女共同参画の視点に立った子ども・子育て支援とは

本調査研究では、国立女性教育会館において長年にわたり実施してきた家庭教育・次世代育成支援に関する調査研究の経緯や成果を踏まえ、「子ども・子育て支援活動における男女共同参画の視点の要素」について検討し、それらを以下の７点に分けて捉えた。その上で、子育て支援NPO法人を対象とした質問紙を設計した。

子ども・子育て支援活動における男女共同参画の視点の要素

□①子育て中の母親のエンパワーメント・ライフプランニング支援
□②父親の育児参画・子育て支援活動への参画の支援
□③団塊世代・高齢の男性の子育て支援活動への参画の支援
□④支援者のいままでの経験を考慮した男女のキャリア形成支援
◇⑤固定的性別役割分担に基づかない身近なロールモデルの提示
◇⑥子どもの男女共同参画の理解・将来を見通した自己形成の促進
◇⑦子どもが安心・安全に暮らせる環境の確保

以上の７点のうち、①から④（□印）は子育ておよび子育て支援にかかわる大人に関する要素、⑤から⑦（◇印）は子どもの育ちに関わる要素を示している。各要素を以下に簡単に示す。

①子育て中の母親のエンパワーメント・ライフプランニング支援

子育て中の母親が、母親としての役割だけでなく、一人の女性として主体的な力量形成をおこなうための支援、あるいは、生涯を見据えたキャリアプランニングができるような支援をする。「現代の母親たちは『親としての役割』を担うことと『ひとりの女性としての自己実現』との狭間で悩んでいる」（原田　2010：8）状況にあり、一人の個人としての自分自身のあり方への不安や焦燥を抱え、親自身が生きているという実感や将来に対する希望をもてなければ、子どもとの良好な関係を維持することも困難になる（柏木　2008）。このような母親たちが一歩外に足を踏み出し、社会とつながり活動していくための支援が必要となっている（大日向　2005）。子育て中の母親たちが活動したり学んだりしながら力量形成し、地域や社会に参画することは、活力ある地域・社会づくりにもつながる。

②父親の育児参画・子育て支援活動への参画の支援

父親の子育てや家庭教育への参画を促進・支援する。男性が子育てや地域社会に参画することは、男女共同参画社会の形成に向けて必要なだけでなく、男性にとっても生きやすい社会となる（矢澤・国広・天童　2003）。固定

的性別役割意識の解消やワーク・ライフ・バランスの推進等に向けた企業における意識啓発・職場環境の改善の取り組みや、男性への子育てに関する学習機会の提供等を進めることが大切である。また今後は、男性が個々の家庭の子育てだけでなく、地域のネットワークをつくり、子育て支援活動や地域づくりに参画していくための支援も必要であろう。

③団塊世代・高齢の男性の子育て支援活動への参画の支援

団塊世代・高齢の男性は、仕事中心の生活を終えた後、地域で何かしたいがきっかけがなく、つながりもないという場合が多い。このような男性の男女共同参画の意識を醸成し、子育て支援活動や地域づくりへの参画を促進する。

④支援者のいままでの経験を考慮した男女のキャリア形成支援[2]

男女共同参画の地域づくりのためには、支援者も活動を通して力量形成していけるような支援やしくみづくりが必要である。その際、女性と男性では、それまでの性別に基づく経験が異なる場合が多いことから、それらに考慮して、それぞれの社会活動にかかわるキャリア形成を支援することが大切であろう。例えば、女性の場合、子育て経験のある人が支援にかかわることが多いが、支援者として、また時代に即した地域づくりの担い手としての資質向上のための学習・研修の機会は欠かせない。また、それぞれの今までの社会活動への参画の経験を踏まえた支援や経済的自立に向けての活動のしくみづくり等が課題となる。男性の場合は、今まで社会活動の経験が少ないことが多く、新たに社会活動のキャリア形成を支援することが必要になる。また、乳幼児の保育や子育て中の親とのかかわり等、男性たちが今まで経験してこなかった子どもや地域住民とのかかわりや、固定的な性別役割分担意識にとらわれない活動を促進すること、およびそれらの活動を通した個人としての発達や新たな「生きがい」の発見を促していく必要があろう。

⑤固定的性別役割分担に基づかない身近なロールモデルの提示

女性も男性も子育てや子育て支援活動に参画し、固定的な性別役割分担に基づかない大人の活動や役割を子どもたちに提示する。このような身近な

ロールモデルを示すことによって、次代を担う子どもの男女共同参画に関する意識の醸成につなげる。

⑥子どもの男女共同参画の理解・将来を見通した自己形成の促進

次代を担う子どもたちが、性別にかかわらず個性と能力を発揮できるよう育つように、また、今後の社会全体の男女共同参画を推進していくために、子どもの男女共同参画の理解を促進する。また、生涯を見通した総合的なキャリア教育を推進し、子どもの自己形成を促進するための支援をおこなう。

⑦子どもが安心・安全に暮らせる環境の確保

児童虐待、性暴力、犯罪等の被害の防止および被害を受けた子どもへの適切な対応をおこなうために、地域の関連機関が連携し、女児も男児も安心・安全に暮らせる環境を確保する。また、DV被害者の子ども、ひとり親家庭の子ども、外国人家庭の子ども等、特別な支援が必要なさまざまなニーズに合わせた支援ができるように、支援者の資質向上や連携のしくみづくりをおこなう。

4　女性関連施設・女性団体が子育て支援にかかわる意義

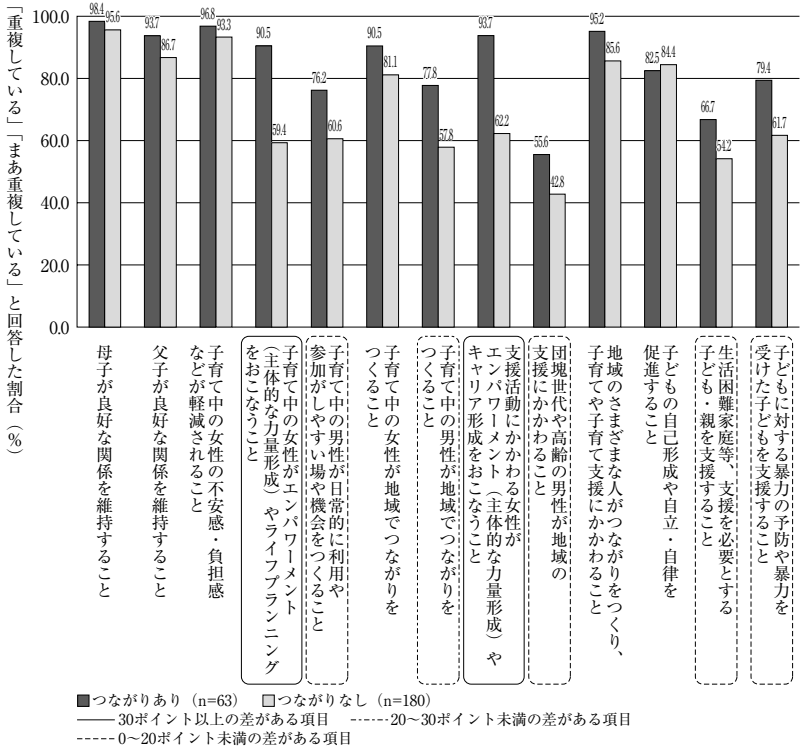
子育て支援NPO法人を対象とした質問紙調査では、23の機関・組織を挙げ、つながり（連携・協働・ネットワーク等）があるものをきいた。その結果、女性関連施設とつながりがあると回答したのは25.9％（63）、女性団体とつながりがあると回答したのは30.5％（74）であった。女性関連施設の子育て支援NPO法人とつながりの内容は、学習・活動の場・情報の提供や事業の協働、一時保育の委託、特別な支援が必要な人への対応の際の連携、保育者養成講座の実施・活動に向けた支援等である。また、女性団体の子育て支援NPO法人との主なつながり方は、地域ネットワーク、事業の協働、特別な支援が必要な人への対応の際の連携・情報交換、一時保育の協力等である。男女共同参画を推進する女性団体が、講座の実施や子育てひろばの運営等に

より、直接的に子育て支援の活動にかかわっている場合もある。

第１図、第２図は、前項で示した「子ども・子育て支援活動における男女共同参画の視点の要素」をもとに分けた13の項目について、活動する上で重視していると回答した割合を、女性関連施設および女性団体とのつながりの有無別にみたものである[3]。つながりの有無によって回答した割合の差の大きい項目を10～20ポイント未満、20～30ポイント未満、30ポイント以上に分けて囲んでいる。

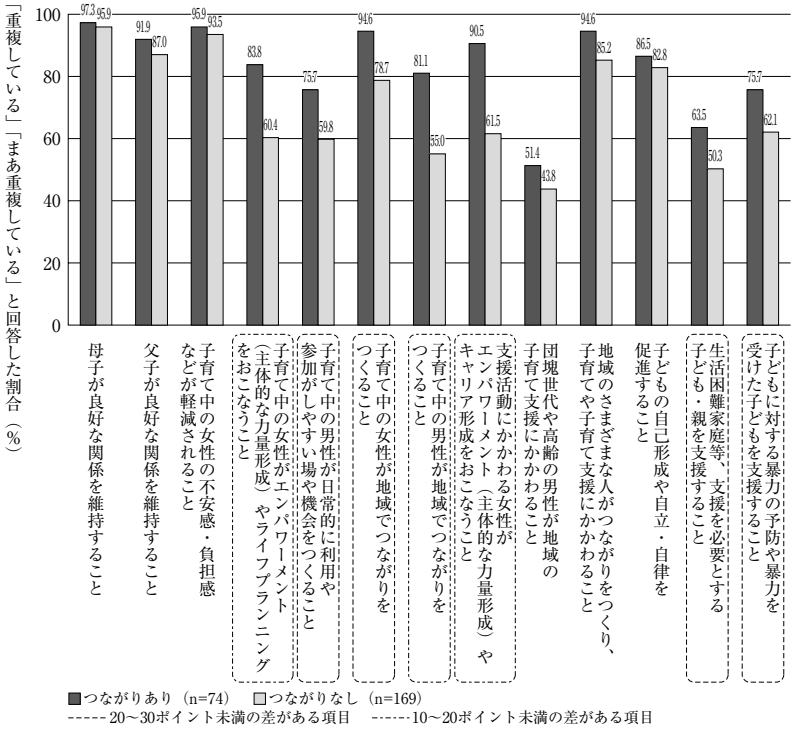
これをみると、母子や父子の良好な関係、子どもの自己形成、子育て中の女性の不安感・負担感の軽減については、つながりの有無にかかわらず、共

第１図　活動する上で重視していること（女性関連施設とのつながりの有無別）（N＝243）



通して重視している割合が高い。一方、子育て中の女性や支援活動にかかわる女性のエンパワーメント・キャリア形成、子育て中の男性の地域参加、要支援の子どもに対する支援等については、つながりがあるほうが、重視していると回答した割合が10ポイント以上高くなっている。

第２図　活動する上で重視していること（女性団体とのつながりの有無別）（N＝243）



5　男女共同参画の視点に立った子ども・子育て支援の地域づくり

インタビュー調査からは、女性関連施設や男女共同参画を推進する女性団体が子育て支援にかかわり、子育て支援に携わる人材や子育て世代等とつながることで、男女共同参画の視点に立った取り組みがおこなわれ、それにより人づくり、地域づくりが促進されていることがわかった。それらの取り組みの姿勢や工夫について、簡単に以下にまとめる。具体的な個々の事例については、報告書を参照されたい（国立女性教育会館　2011）。

①子育て中の母親の主体的な学びおよび次につながる活動の支援

ひろば等を利用する子育て中の母親を一人の大人の女性として捉える視点を重視し、主体的な学びや活動の場や次のステップを見据えた活動の機会を提供する。具体的には、働くことに関するミニプログラムの実施や、いままでの経験・特技・資格等を活かして利用者が講師となるワークショップ、作品展示・販売の実施等をおこなっている。「しゃべり場」等の交流の機会の提供では、スタッフがファシリテーターとなり、男女共同参画の視点から参加者の気づきを促す支援をおこなっている。

②子育て中の母親がやりたいと思う活動をサポートし、次世代リーダーを育成

子育て中の母親と協働して活動をおこなったり、支援したりする際には、母親たち自身の主体性を尊重し、また世代等の違いによるニーズの違いを理解し、母親たちがやりたいと思う活動が効果的におこなえ、それらが個々の母親たちのエンパワーメントや地域づくりにつながるように、必要に応じた支援や助言をおこない活動を後押しする。

③特別な支援が必要な母親や子どもへの女性相談の視点に立った支援

子育て中の母親との気軽な会話から、女性がおかれた社会的状況に起因する問題を見逃さず、児童虐待だけでなく、DV、貧困、夫婦関係等、複合的

かつ社会的な視野から、声をかけたり関連するワークショップの紹介等をおこなう。DV被害等がある場合には、必要な情報の提供や、地域の女性関連施設や女性団体等のネットワークを活かしたサポートをおこなう。

④支援活動をおこなう女性のエンパワーメントのためのしくみづくり

支援に関わる女性の社会活動のキャリア形成や経済基盤の確立を考慮して活動する。

NPO法人の場合は、支援者のための働き方や報酬、研修のしくみを工夫し、子育てを終えた女性等がモチベーションを維持しつつキャリア形成ができるようにしている。また、子育て中の母親も、いつも支援される立場にいるのではなく、それぞれがもつ経験や、主体的な学び・活動を活かし、ひろばのスタッフやボランティア、講座の講師等、支援する立場にもなる機会を提供している。

女性関連施設では、施設が実施した子育て支援者養成講座の修了生が団体を立ち上げ、その後NPO法人格を取得して活動を広げ、地域づくりに貢献しているケースが複数ある。講座修了後も引き続き修了生とつながりをもち、活動をサポートしている。

⑤男性の子育ておよび子育て支援活動への参画支援

子育て中の男性や団塊世代・高齢の男性の子育ておよび子育て支援活動への参画促進に取り組んでいる施設・団体も多い。個々の男性の家事・育児を通した家庭参画だけでなく、男性たちが地域づくりに参画することをめざし、地域活動に関わる機会の少ない男性たちがまずは地域でつながりをつくることを支援し、活動のきっかけをつくっている。

6　おわりに

本調査研究では、女性関連施設や女性団体が地域の子ども・子育て支援にかかわる意義が明らかになった。女性関連施設や女性団体が子育て支援団体とつながることによって、子育て中の女性や支援活動をおこなう女性の社会

参画や、男性の子育てや子育て支援活動への参画、生活困難や暴力被害等、特別な支援が必要な子どもへの支援を重視した活動等が促進されることが示唆された。また、インタビュー調査の事例からは、中長期的な視野をもった継続的な人と人との紐帯が、社会活動を担う次世代の人材を育て、それらの人材によって地域づくりがおこなわれていることが示された。

今後の男女共同参画の推進に向けては、「地域における身近な男女共同参画の推進」や「課題解決型の実践的活動中心の取り組み」の重要性がいわれている（内閣府「第３次男女共同参画基本計画」2010）。これからは、地域の活性化や課題解決をめざすさまざまな活動分野を横断するような男女共同参画を推進する活動がますます大切になってくるだろう。本調査研究の結果は、子ども・子育て支援の分野における地域コミュニティづくりに女性関連施設や女性団体が加わることの成果を提示した。これらのつながりが示すような「ゆるやかで強いネットワーク」は、ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）と捉えられ、地域社会における課題解決の切り札として議論されているところである（西口　2009、金子　2002）。即効的な事業の成果が求められがちな昨今、地域における男女共同参画の推進に向けて、成果がみえるまで時間がかかるこのような紐帯の有効性や具体的内容について、自治体や関係者の理解促進を粘り強く図りつつ、地域づくりを進めていくことが重要であろう。

注

1　本調査研究の詳細については、国立女性教育会館（2011）参照（国立女性教育会館ホームページからもダウンロード可能）。

2　ここでいう「キャリア」とは、個々人が、職業生活だけでなく、家庭や地域、社会等において生涯にわたって経験するさまざまな立場や役割を遂行する活動をさす。

3　第１図、第２図の縦軸は、活動をおこなう上で13のそれぞれの項目をどの程度重視しているか、「重視している」「まあ重視している」「あまり重視していない」「重視していない」の４件法で質問した結果について、「重視している」お

よび「まあ重視している」の回答数を合わせた割合を示している。

引用文献

大日向雅美　2005『「子育て支援が親をダメにする」なんて言わせない』岩波書店

柏木惠子　2008『子どもが育つ条件――家族心理学から考える』岩波書店

金子郁容　2002『新版コミュニティ・ソリューション――ボランタリーな問題解決に向けて』岩波書店

国立女性教育会館　2011『子ども・子育て支援を通した身近な男女共同参画の推進――男女共同参画を推進する施設や団体がおこなう子育て支援と地域づくり（平成22年度「男女共同参画の視点に立った地域全体で取り組む次世代育成支援事業に関する調査研究」報告書）』

西口敏宏　2009『ネットワーク思考のすすめ――ネットセントリック時代の組織戦略』東洋経済新報社

原田正文　2010「これからの子育てはどうあるべきか」教育と医学の会編『教育と医学』第58巻５号　慶應義塾大学出版会

矢澤澄子・国広陽子・天童睦子　2003『都市環境と子育て』勁草書房

（いいじま・えり　国立女性教育会館客員研究員）